

<b>DBN粒剤</b> <b>カソロン粒剤6.7</b>	<b>取扱メーカー：</b> 北興、カネショウ、一農、琉産  <b>原体メーカー：</b> アリスタLS
<b>成分：</b> DBN〔PRTR・1種〕……………6.7%	<b>性状：</b> 淡褐色細粒 <b>毒性：</b> 普通物 <b>消防法：</b> —

### 【品目特性】……………

- カソロン粒剤2.5の項参照。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

### 【使用上のポイント】……………

- 広葉雑草を対象に（スポット）処理をする場合は $\text{m}^2$ 当り、又は1株当り所要量を手まきする。
- 雑草の発生始めに使用する。
- 土壌が乾燥しすぎると効果が落ちるので雨上がりなどの土壌水分の多い時に使用する。
- イネ科雑草が優占する場所での使用はさける。
- 全面散布の場合は散布ムラを生じないように全面に均一に散布する。

### 【薬効・薬害等の注意】……………

- カソロン粒剤2.5の項参照。
- 果樹園、桑園では土壌混和しない。
- 果樹園での多年生雑草への局所処理では、処理箇所数に応じて使用量を加減する（ $1\text{m}^2$ 当り8～10g又は、1株当り3～5g）。

- 春期の発生始めから入梅前までに使用し、大きくなりすぎた雑草はあらかじめ刈り取っておく。
- 風通しの悪い凹地など空気の滞留しやすい場所では使用しない（下枝の葉や果実への薬害）。
- 休耕田に使用する場合は、土壌全面に散布し、できるだけ土壌混和し、薬剤が隣接圃場に流入しないようにする。発芽検定試験を行い、後作への影響に注意する。
- 適用作物（りんご、なし、もも、桑及び適用作物全般）の薬害などの注意は「薬害注意事項解説」を参照。
- 適用外作物（かぼちゃ、うり類などの野菜、きくなどの花き、ホップ及び周辺作物）への薬害などの注意は「薬害注意事項解説」を参照。

### 【安全対策上の注意】……………

- カソロン粒剤2.5の項参照。
- 魚類に影響を及ぼすので、使用時は注意。



# 【適用と使用法】 .....

作物名	適用場所	適用雑草名	適用土壌	使用時期	10 a 当り 使用量	本剤の 使用回数	使用方法	D B N を含 む農薬の総回 数
りんご	—	一年生雑草	全土壌	春期の雑草 発生始期	8 ～ 12 kg	1 回	全面土壌散布	1 回
		ギシギシ, ヨモギ, タンポポ, ヤブガラシ等の 多年生広葉雑草		春期の雑草 発生始期～ 生育期	8 ～ 10 kg		雑草の株元又 は成長点に所 要量を局所処 理する。	
		一年生雑草及び 多年生広葉雑草 (まめ科を除く) スギナ		秋冬期の雑 草発生前～ 発生始期	5 ～ 6 kg		全面土壌散布	
な し も も		ギシギシ, ヨモギ, タンポポ, ヤブガラシ等の 多年生広葉雑草		春期の雑草 発生始期～ 生育期	8 ～ 10 kg		雑草の株元又 は成長点に所 要量を局所処 理する。	
桑		一年生雑草	砂土、赤 黄色土壌 を除く全 土壌	雑草発生前 ～発生始期 (春又は夏 切直後)	6 ～ 8 kg		全面土壌散布	
水田作物, 畑作物 (休耕田)	休耕田	水田一年生雑草 マツバイ	全土壌	4 ～ 7 月の 雑草発生前 ～発生始期	4 ～ 6 kg		全面土壌均一 散布又は土壌 混和処理	
水田作物 (水田畦畔)	水田畦畔	一年生雑草及び 多年生広葉雑草 (まめ科を除く) スギナ		秋冬期～ 春期の雑草 発生前～ 発生始期			全面土壌散布	
樹木等	公園、庭 園、堤と う、駐車 場、道路、 運動場、 宅地、の り面、鉄 道等	一年生雑草	—	雑草発生前 ～発生始期	6 ～ 9 kg	3 回 以内	植栽地を除く 樹木等の周辺 地に全面土壌 散布	3 回 以内
		多年生広葉雑草 スギナ			10 ～ 15 kg			